

安全対策協議会 2011年3月14日

在ジャマイカ日本国大使館の岩瀬書記官よりご教授いただきました。

1. 最近の治安情勢

- (1) 2010年5月にギャング首領“DUDUS”が逮捕されて以降、政府によるギャング組織掃討作戦が展開され、首都圏に暗躍していたギャングメンバー自体は減少しつつあり、徐々に落ち着きを見せ始めている。
- (2) 統計によれば、国内の犯罪発生件数は全体で7%程度減少、特に殺人事件による死者は1,430人で、史上最悪を言われた2009年の1,682人の15%減少である。また、懸案事項の1つである薬物問題も依然として深刻であるが、2010年の統計では、治安当局の取締りが強化されている傾向にある。
- (3) 上記のように国内の犯罪発生率は減少傾向にあるが、それでも首都圏における犯罪発生は多いのでじゅうぶんに注意すること。ひったくりや強盗が急増している。
- (4) 他方、首都圏にいたギャングメンバーは、治安部隊の締め付けにより地方に移動しているという警察当局の見方がある。

2. 一般的な防犯対策

(1) 目立たない行動

目立つ服装や華美な装飾品は犯罪を誘発することにもなりかねない。また、多額の現金や貴重品を持ち歩くことも避ける。

(補足：ファッション感覚の差異もあるが、本人は普通の服装だと考えていても、じゅうぶんに目立つ＝浮いている存在になっており、ターゲットにされ易い。)

(2) 危険と言われている地域への立入禁止および夜間外出の自粛。

現在、全国的かつ散発的に外出禁止令 CURFEW が発令されている。また、ゲットー一地区等の危険と言われている地域の立入りを避けると共に、夜間の不急不要な外出など、危険な目に遭う機会を極力少なくするよう自ら心掛ける。

(3) 少人数での外出を控える。

日本人が被害に遭った例を見ると、単独あるいは少人数での行動が多い。特に夜間は細心の注意を払い、特に徒歩での行動は極力避けること。

3. 強盗対策（不幸にも強盗に遭ってしまったら）

(1) 抵抗しない、刺激しない。

強盗犯は必ず拳銃やナイフなどの凶器を持っており、抵抗すれば命を落としかねない。犯人を刺激するような言動は避け、抵抗はせず金品を差し出す。

(2) 命金を持っておく。

何も奪うものが無ければ逆上する恐れがあるので、多少の現金を持っておく方がよい。

4. 選挙時の対策

(1) 現状

ジャマイカの2大政党（PNP, JLP）の支持者（ギャング組織を含む）間には深刻な対立があり、過去に大規模な銃撃戦が発生し、多数の死傷を出した経緯もあるので、選挙期間中は特に慎重な行動が必要となる。

(2) 危険と言われる地域への立入禁止

過去に対立抗争が発生した地域、対立する支持者が隣接する地域は、特に注意が必要である。“MATHEWS LANE” “MOUNTAIN VIEW” 等を含む下町地区は落ち着きを見せ始めてはいるが、今後の展開は不明であるので要注意。

(3) 集会場所などへの立入禁止

余計なトラブルに巻き込まれないように期間中は候補者の演説会場や、それぞれの支持者が集まる場所には立ち入らないし、近寄ることも避ける。

(4) 政党カラーの衣服着用自粛

2大政党にはそれぞれ象徴カラーがあり、選挙期間中それらの色の帽子やシャツを着用していると、反対勢力から思わぬ嫌がらせを受ける可能性が高い。それらを着用している観光客にも注意掛けをすること。

PNP=オレンジ JLP=緑

質疑応答

Q1 勤務地域に治安部隊が再投入されているが、危険が再発しているのか？

A 該当地域が危険であるかは後日調査するが、治安当局はランダムに投入している。
調査結果：該当地域より一層山奥で当局によるミッションがあり、終了後も引き続き該当地域を含みランダムに警備を行っている。

Q2 数字上では犯罪は減少傾向にあることがわかるが、治安状況の見方は？

A 組織的な大きな犯罪が減り、形を変えて一般犯罪が増えている。

Q3 CURFEWは地方によく発令されているのか？

A YES, もともとその該当地域は危険なところ。

補足

ロンドンでは麻薬汚染が深刻な社会問題になっているが、国外追放された危険人物（ジャマイカ人）がジャマイカに強制送還されている現実で、今後それらに絡んだ犯罪が発生することに要注意。

地震対策

1) 登録の確認

在留届など、各機関（JICA や日本人会）の登録事項の確認要。

2) 有事・災害時に落ち合える場所の設定 = 大使館だけとは限らない。

以上。

2011年3月14日 午後2時より3時30分まで。